

会話型アプリケーション起動支援システムの提案

005063 亀 紀子

(指導教員 速水 治夫 教授)

1. 研究の動機と目的

現状のデスクトップはアイコンが並ぶだけで無機質な印象を持つ上に、どこをマウスでクリックすればよいかわからないアイコンの羅列や、スタートアップの膨大なアプリケーションの列挙の中から、目的のアプリケーションを探す手間はパソコンに不慣れな人間にとって拒否反応を起こす一因になるのではないかという考えに基づき本システムを作成することにした。

そもそも、今のデスクトップでは、アプリケーションの名前からでは、その機能がわからない場合が多い。そのためどのアプリケーションを使用すれば目的の作業が出来るかわからない初心者にとってより近寄りやすい印象を与えてしまうと考えた。

そこで本システムは、アプリケーション名とその機能を知らなくとも作業目的にあわせたアプリケーションの選出ができ、また目的のアプリケーションを捜す手間を省きアプリケーションの起動支援を目的としたシステムである。さらにユーザインタフェースについては、ユーザに対し会話形式とキャラクタを用いることによりユーザに親近感を持たせる工夫をし、本システムを構築した。

2. システムの構成

本システムは、Visual C++とCSV形式のデータをデータベースとして用いてシステムを構築した。まず、システムはユーザに対し使用目的の入力要求を行い、ユーザの目的入力後、内容を解析し、ユ

ーザの目的にあったアプリケーションの選出、起動することとする。さらに本システムはCSV形式を用いることによりEXCELからユーザが任意のアプリケーション追加をできるようにした。

3. 結果

当初の目的である、アプリケーションの名前からでは、その機能がわからない。そのためどのアプリケーションを使用すれば目的の作業が出来るかわからないという状況で本システムを使うことによりアプリケーション名と機能を理解しなくても、目的からアプリケーションを選ぶことができるようになり、またキャラクタを用いることによりパソコンに対して親近感をあたえられた。

4. まとめ

今後の課題とし、機能としては、見た目をより親しみやすさを持たせるような改善や、キーボードを利用できないユーザに対して、音声にてデータ入力ができるよう追加などがあげられる。またシステムとしてはデスクトップに対する見解は人によりさまざまであることから、本システムを用い、ユーザの任意にデスクトップをカスタマイズできるようにすることが必要といえる。